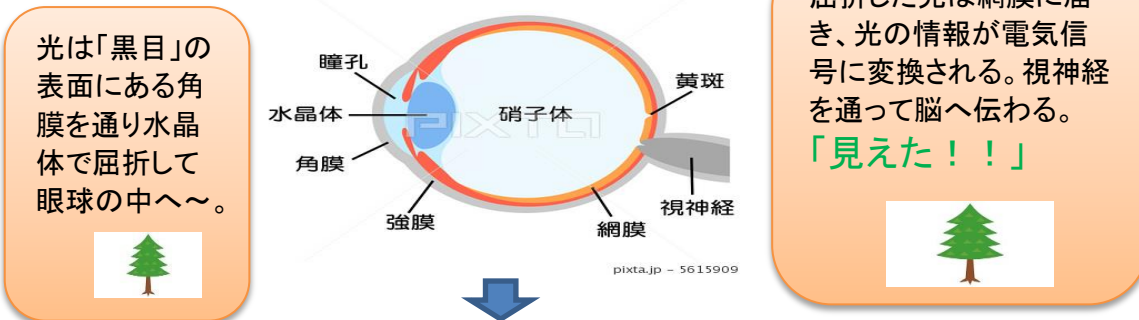


医務室通信 NO4 富山県立大学 医務室

10月10日は「目の愛護デー」です。今回は目について特集します。下の絵は物が見える目の仕組みです。



この経路のどこかに問題が起こると、見方に異常が生じてきます。

学生に多い症状→目がショボショボ！目が乾く！！目がゴロゴロする！！



パソコンやスマートフォンによる目の酷使、乾燥やコンタクトレンズやエアコンによる目の乾燥によるものかもしれません。⇒時々遠くの景色を見たり、点眼薬（涙成分にちかいもの）をさしてみましょ。



ピントが合いづらい、目がかすむ、晴れた日や対向車のライトが以前より眩しく感じる。眼鏡やコンタクトの度数をあげても見えにくい。物がゆがんで見える。字が欠ける、大きくまたは小さく見えたりする。ぼやけたり、視野が狭くなって見える。⇒網膜や視神経といった目の奥で、障害があるのかもしれません。おかしいと思ったら、眼科を受診して下さい。

近視

10月10日
目の愛護デー



本校学生も近視の方が多いようです。近視は正視の人より眼球が前後に伸びて、眼球が楕円のような形をしています。このために網膜や視神経が常に引っ張られた状態となっており、障害が起こりやすくなります。網膜剥離、緑内障、黄斑部の病気など、進行すると失明に至るような病になるリスクがあることを、知っておきましょう。

大人の近視で、最近ではICL(眼内コンタクトレンズ・手術で薄いシート状の眼内コンタクトレンズを水晶体の前に挿入する方法)というものがあります。レーシック手術と違い角膜を削らない長所がありますが、手術費がたいへん高額であること、手術を受けられる年齢に制限があること、目の病気や眼圧の高い人は受けられない事、矯正視力が1.0以上でないといけない事などがあります。

たとえ手術を受けて近視を矯正できても、眼球が伸びているので、網膜剥離や緑内障、黄斑部の病気など、近視に伴う病気のリスクはなくなりません。

